

𠂔(サイ) とは何か

「口」(こう) のつく漢字は、日本で一番大きな漢和辞典である『大漢和辞典』の「口」の部に1447字あります。しかし、この中には「くち」という意味だけでは字の成り立ちが説明できなかつたり、矛盾が生まれるものが多いことが知られていました。

例えば、教科書や漢和辞典が基にしてきた、今からおよそ1900年前にできた許慎の『説文解字』では、「告」は「牛が人に何かを訴えるために口をすり寄せている」とされ、「名」は「夕べになると暗いので口で名のっている」と説明されています。しかし、牛は口で人に何かを訴えるというようなことはしませんし、顔が見えなくなる夕べだけでなく、明るい日中でも口で名のるのです。この説明がおかしいのはすぐにわかることでしょう。

この問題に終止符を打ったのが、白川静先生による「𠂔」(サイ) の発見でした。これまで単に「くち」として解釈してきたものの多くは、実は「祝詞(人が神に願いごとをするために書いた文)を入れる器の形」であることを解明したのです。

この発見により、疑問が持たれていた多くの漢字の成り立ちや新しい文字の系列が明らかになりました。それだけでなく、漢字を生む背景になった3000年以上も前の中国古代の人々の生活・習俗・文化までが、私たちの目の前に姿を現してきたのです。

…(中略)…

では、「𠂔」をどうして「サイ」と読むのでしょうか。それは誓いの文書を古い時代に載書といたので、その文書を入れる器である𠂔を「サイ」と読むのです。

「白川文字学に学ぶ『漢字学習講座』資料より」(宇佐美公有作 2005)